
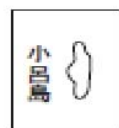


# 福岡市における ポテンシャルマップの活用と今後の展望

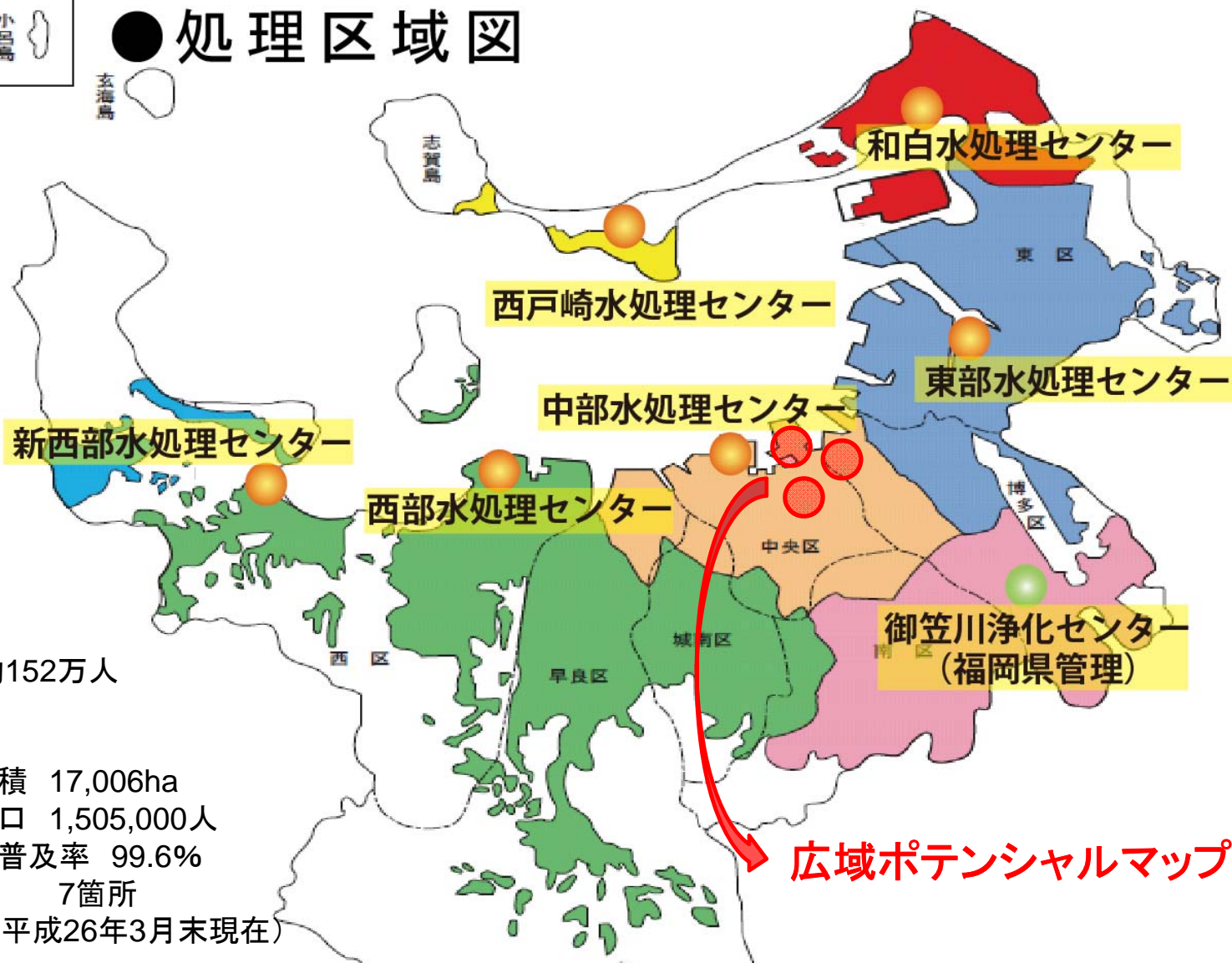


道路下水道局  
計画部下水道計画課  
梅崎 克晃

# 福岡市の下水道



## ● 処理区域図



行政人口 約152万人

下水処理面積 17,006ha

下水処理人口 1,505,000人

下水道人口普及率 99.6%

処理場 7箇所

(平成26年3月末現在)

**広域ポテンシャルマップ**

# 平成25年度 広域ポテンシャルマップの策定

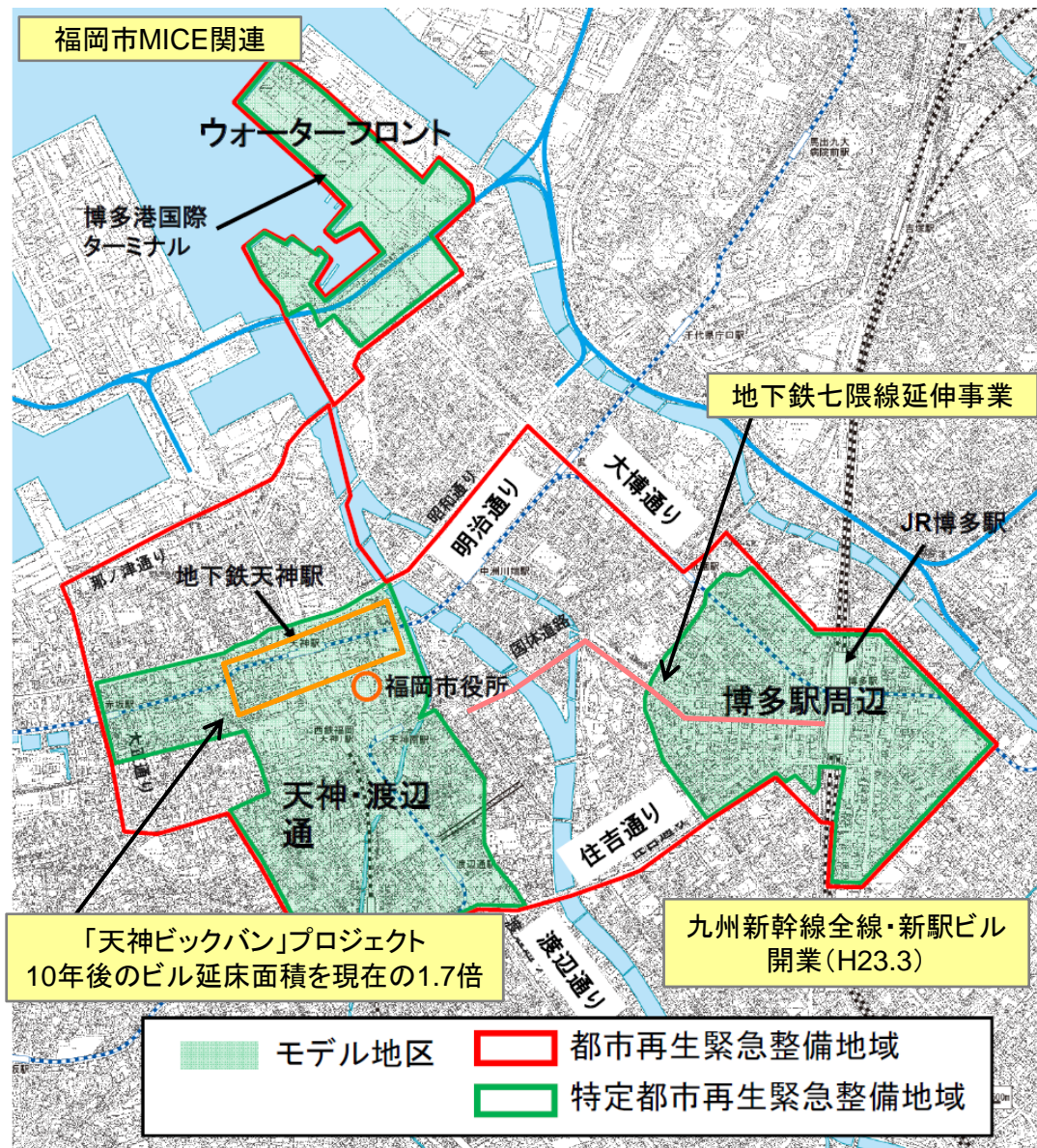
○特定都市再生緊急整備地域(3地区) ⇒ 策定

＜特徴＞

「福岡市都心部機能更新誘導方策」

- ・容積率緩和にあたっての評価  
⇒環境負荷低減等を図る施設整備

下水熱  
PR



# 平成26年度 詳細ポテンシャルマップの策定 とFSの実施

ウォーターフロント地区

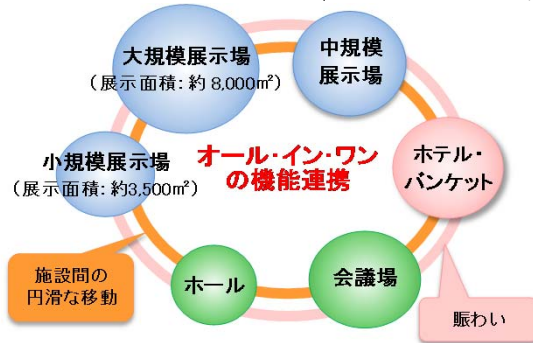
第2期展示場等【予定】

沖浜ポンプ場

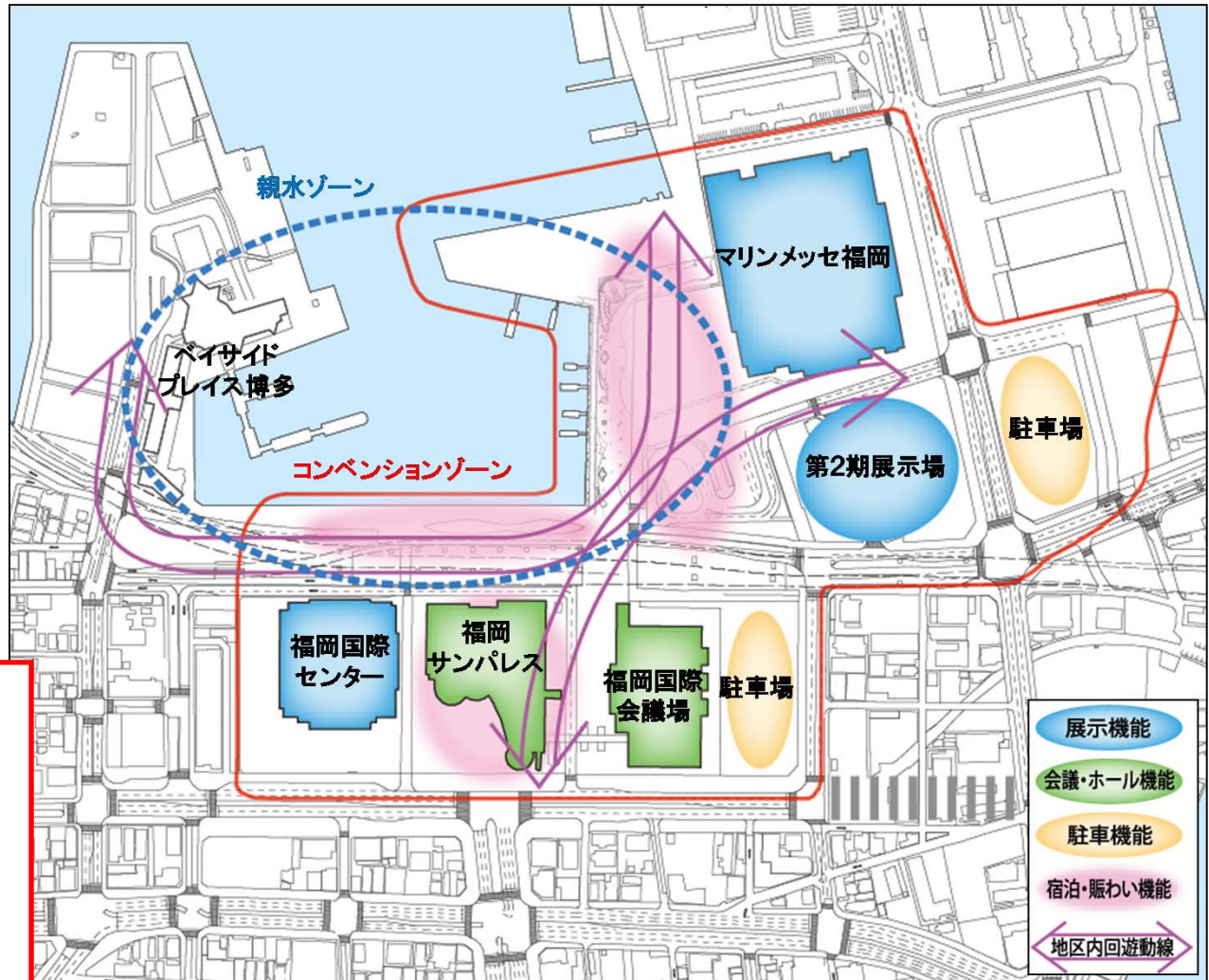
博多1号幹線



# 第2期展示場等の配置イメージ



■「オール・イン・ワン」の概念図



## <施設規模>

### 第2期展示場

- 展示面積: 約 5,000m<sup>2</sup>
- 延床面積: 約 10,000m<sup>2</sup>

### 宿泊機能(ホテル)

- 250~300室程度



# 第2期展示場等の整備手法の考え方

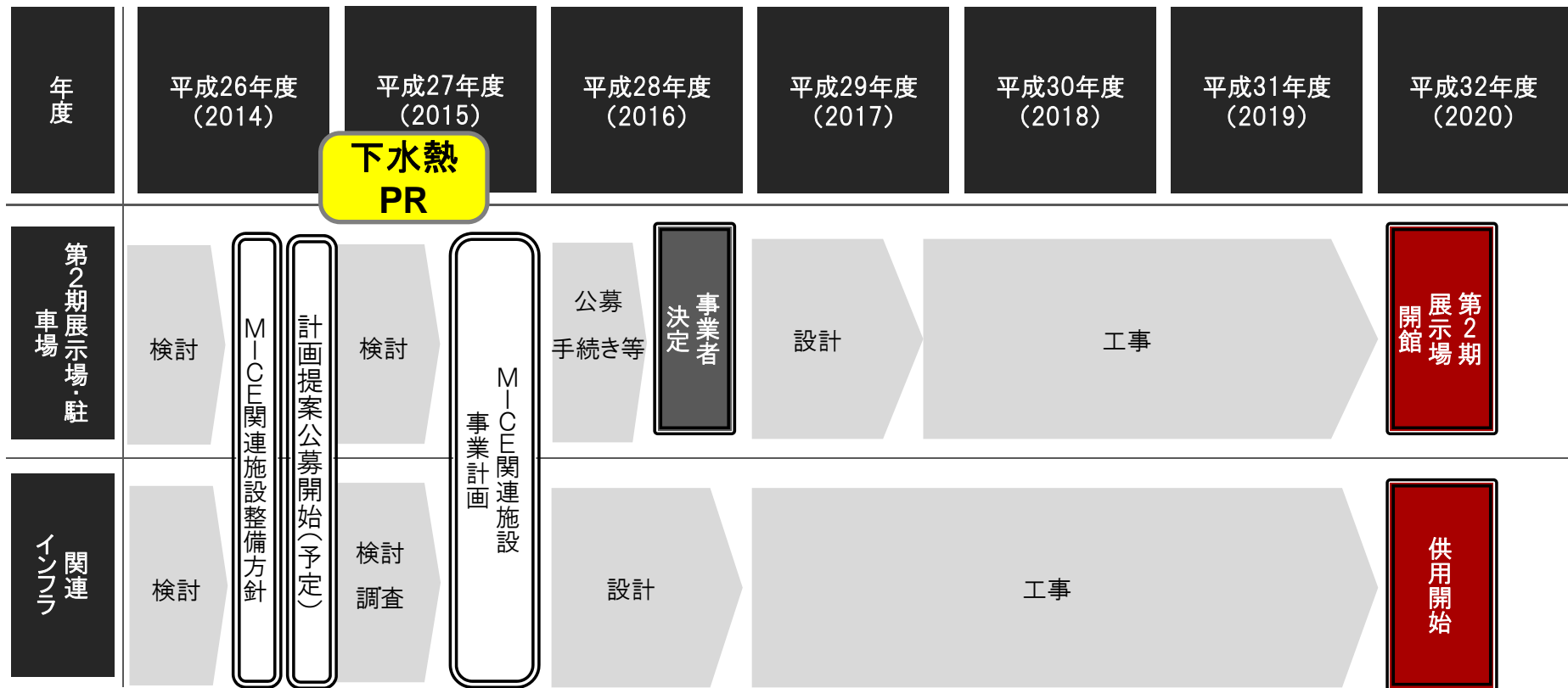
## ○第2期展示場

- ・PFI(BTO)方式による事業化の方向性で進める。

## ○ホテル・賑わい施設等

- ・民間整備を前提とし、今後、実施予定の計画提案公募における民間事業者の提案や対話を踏まえながら、事業区域や導入機能・規模、配置計画、事業スキーム等について検討を進める。

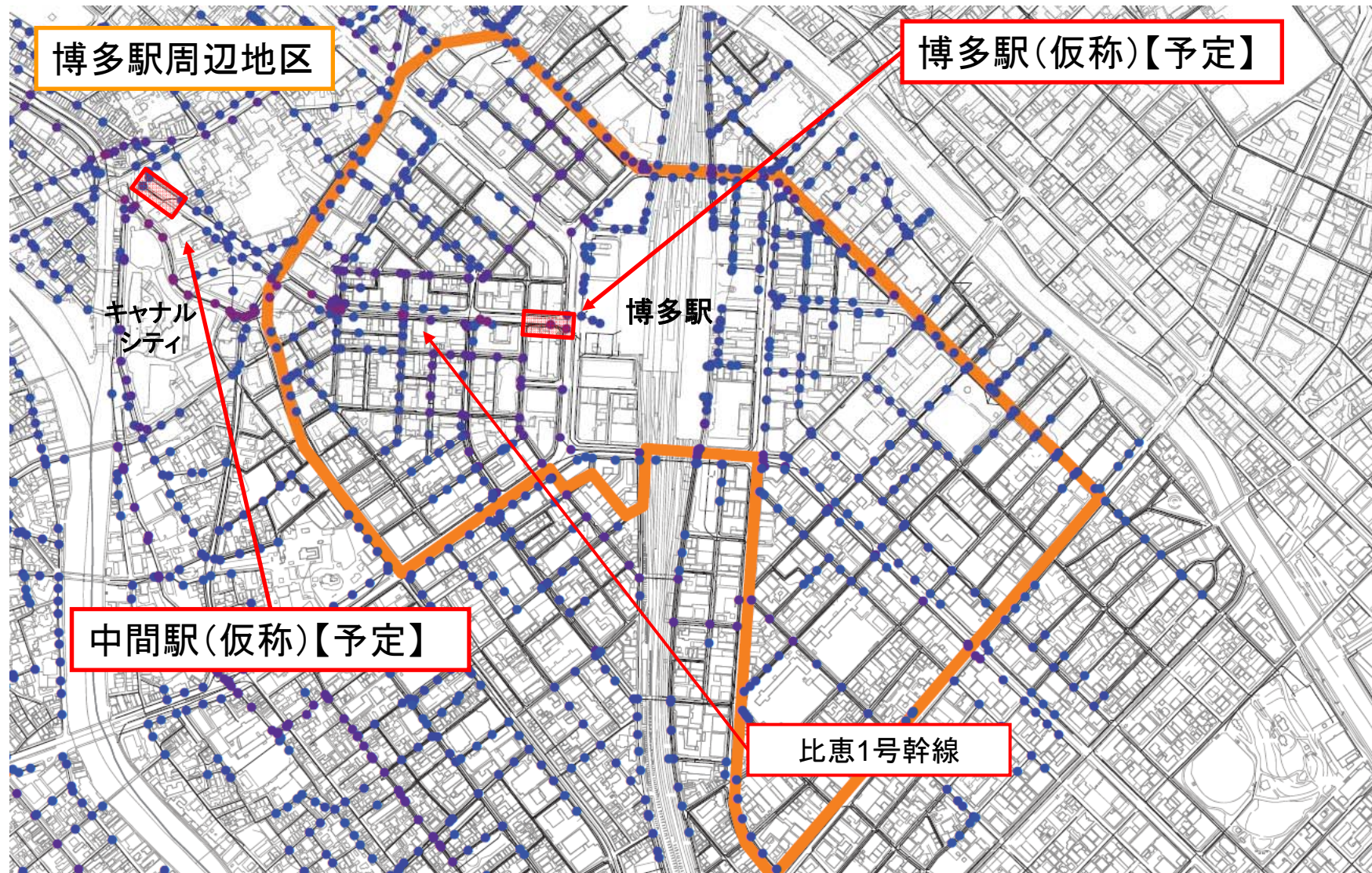
# 第2期展示場等 事業スケジュール(目標)



※ホテル・賑わい施設等については、今後予定している計画提案公募を踏まえながら、事業内容や実施時期を整理した上で、早期に「オール・イン・ワン」が実現できるよう、事業者公募の手続きを進めていく。

# 広域ポテンシャルマップの活用

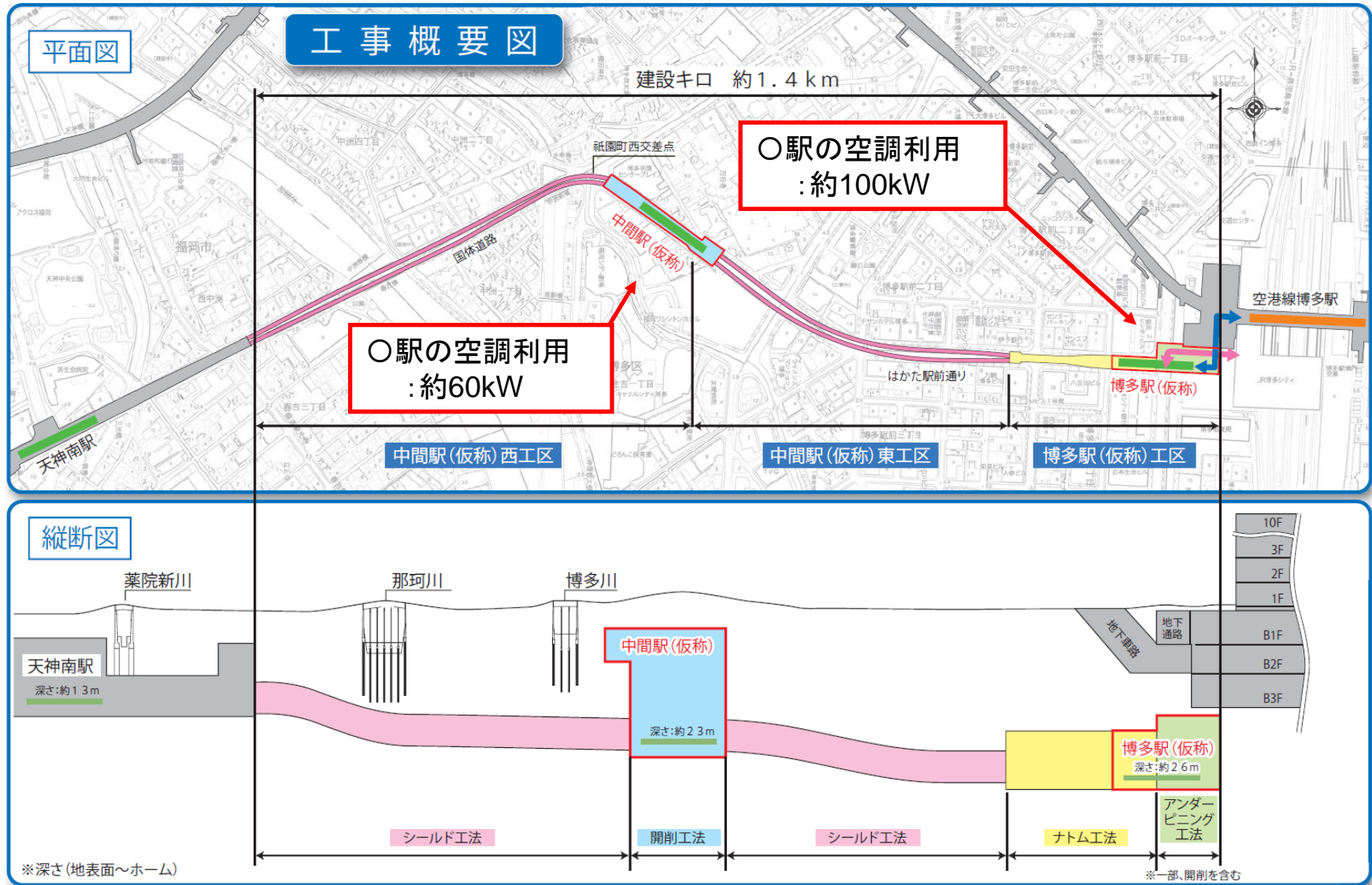
## ○地下鉄七隈線延伸事業





# 広域ポテンシャルマップの活用

## ○地下鉄七隈線延伸事業



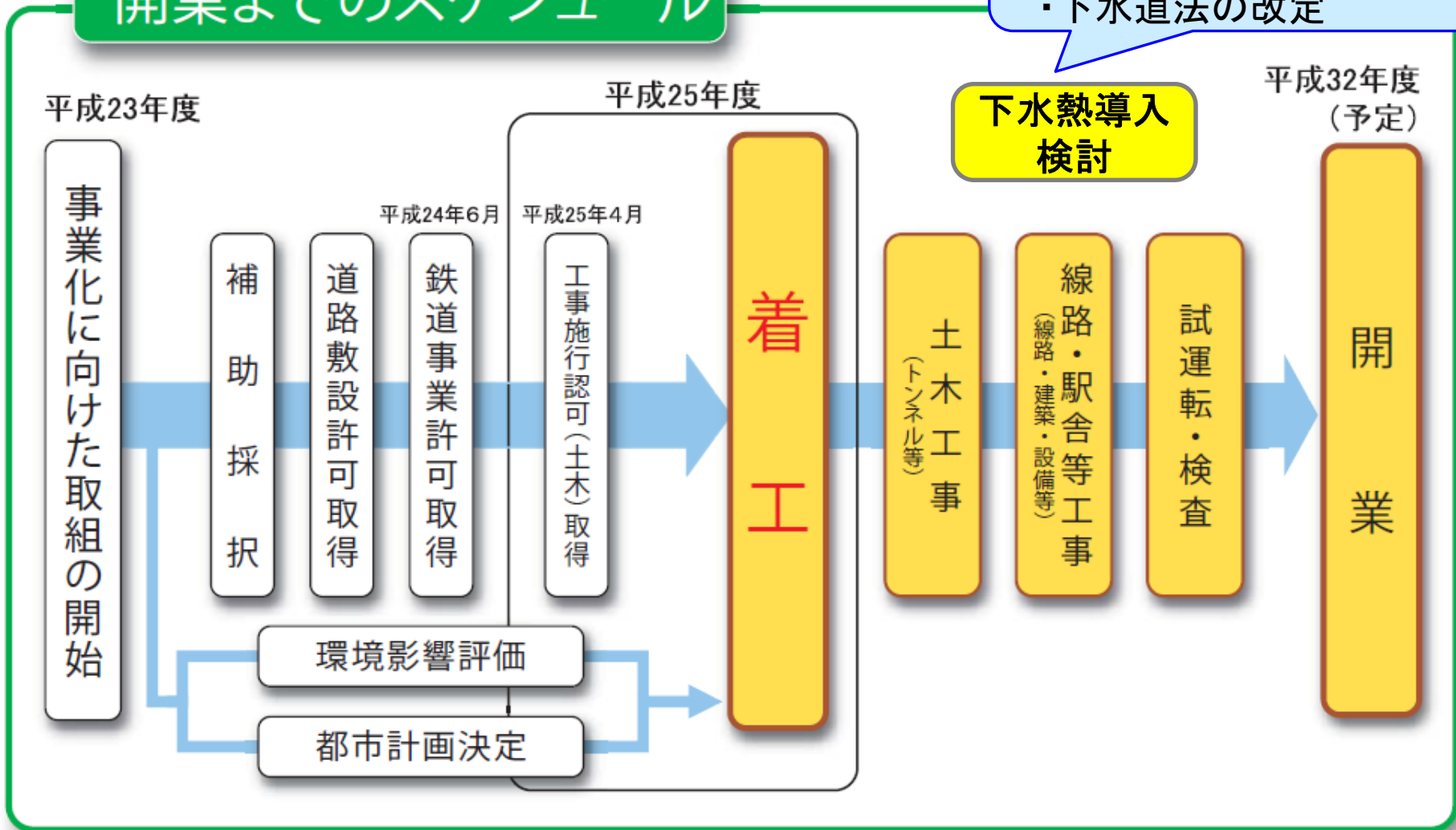
# 広域ポテンシャルマップの活用

## ○地下鉄七隈線延伸事業

### 開業までのスケジュール

○ポイント

- ・管底設置型の熱交換器
- ・下水道法の改定



# 福岡市の特徴と可能性

## ○再生水事業の経緯

昭和53年 ・大渇水(給水制限287日)

昭和54年 ・「福岡市節水型水利用等に関する措置要綱」

・「下水処理水循環利用モデル事業」に着手

⇒延床面積5,000m<sup>2</sup>以上の建築物を対象に再生水を供給



福岡市を代表する河川(那珂川)上流のダム



給水を受ける市民 (福岡市)

# 福岡市の特徴と可能性

## ○再生水事業の経緯

平成 6年 ・大渇水(給水制限295日)

平成10年 ・対象建築物を5,000m<sup>2</sup>以上から3,000m<sup>2</sup>以上へ拡大

平成15年 ・「福岡市節水推進条例」施行

⇒日本ではじめて、雑用水道の利用を義務化

「延床面積3,000m<sup>2</sup>以上の建築物を対象に再生水を供給」

・「福岡市再生水利用下水道事業に関する条例」施行

⇒再生水の利用方法(料金等)について規定



# 福岡市の特徴と可能性

- 再生水供給区域: 1,421ha
- 供給施設数 : 406箇所 (H26.3末現在)

下水熱利用としての可能性を有している

アイランドシティ地区  
324ha

香椎地区  
77ha

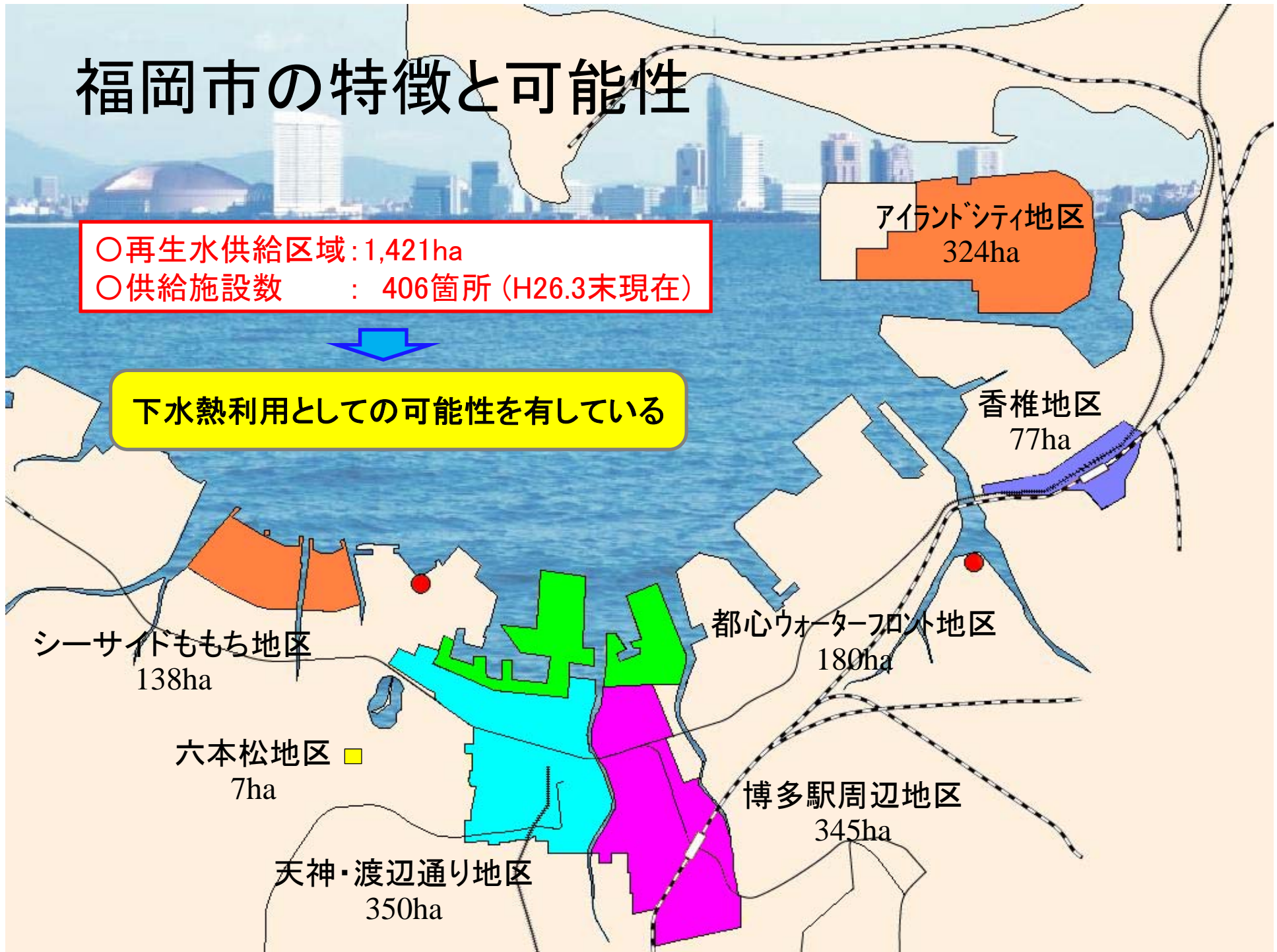
シーサイドももち地区  
138ha

都心ウォーターフロント地区  
180ha

六本松地区  
7ha

博多駅周辺地区  
345ha

天神・渡辺通り地区  
350ha





# まとめ

- 詳細ポテンシャルマップ及びFSの結果を踏まえ、第2期展示場等への導入についてPR
- 新駅(地下鉄七隈線延伸事業)への導入可能性について検討
- 今後も引き続き、マップを活用し、再生水活用(可能性)を含め、下水熱導入に向けPR等を実施

ご静聴ありがとうございました。

